

出向く営農レポート

豊明地域 カリーノケール編

通年出荷を
目指します!

今回のレポートは、昨年の冬から栽培を始めているカリーノケール。まだあまり知られていない新野菜ですが、産直所やイベントでの販売で好評だったため、今年度は4月に定植し夏に収穫できる作型の栽培に取り組んでいます。



豊明地域担当
青木崇史



① 青々と育ったカリーノケール。下葉を残し、中央部分を収穫した様子

①生産者の一人である近藤幸子さんの畑では約100本のカリーノケールを栽培しています。今作では下葉を取らず、全ての葉を光合成させ大きくする栽培方法で順調に生長しており、少しでも長い期間収穫ができるのではと期待がふくらみます。



②



③

②営農職員と話し合いながら葉の色や生長をこまめにチェックし、**防除** や追肥のタイミングを逃さないようにします。

③カリーノケールは専用袋に入れて出荷し、管内の産直所やイトーヨーカ堂で販売しています。さっと茹でてサラダにしたり、炒め物にするとカリーノケールの味がよく分かりおすすめです。ぜひご賞味ください!



8月からは冬の作型の定植を始め10月頃から出荷していく予定です。

カリーノケールはアオムシやアブラムシ被害が多いので、アフーム乳剤やスタークル顆粒水溶剤を使用して防除します。



●アフーム乳剤

散布流量…10アールあたり100～300 ℓ
 収穫前日数…7日
 使用回数…3回
 希釈倍率…アオムシの場合1000～2000倍



●スタークル顆粒水溶剤

散布流量…10アールあたり100～300 ℓ
 収穫前日数…3日
 使用回数…2回
 希釈倍率…アブラムシの場合3000倍

※農薬の在庫や販売価格については各グリーンセンターへお問い合わせください。(P24記載)

登録農薬の 作物名に注意!



農薬取締法における適用作物名は、名前が似ていても別作物として登録される場合があります。使用方法も異なります。身近なものとしてトマトとミニトマトは農薬登録の中では別作物で、トマトに使用できてもミニトマトには使用できない農薬があります。

営農レポートで紹介しているカリーノケールはケールの一種なのでケールとして登録されている農薬を使用します。カリーノケールは、ケールや非結球あぶらな科葉菜類、アブラナ科野菜、野菜類の農薬を使用することができます。

当JAの各産直所には農業電子図書館登録農薬検索コーナーがあり、作物名から使用できる農薬を検索したり、農薬名から使用できる作物を検索できますので、ぜひご活用ください。

使用農薬を慎重に確認して間違いのない農薬散布を行いましょう。

間違いやすい作物(例)

- トマト：ミニトマト
- レタス：リーフレタス
- ブロccoli：茎ブロッコリー
- えんどうまめ：さやいんげん
- ピーマン：ししとう：とうがらし